

1. 湖内堆砂対策施設の見直し

1.5 スtockヤード運用方法イメージ

(1) 通常時(10月～5月)

・通常時(非出水期(10月～5月))に美和ダム貯水池上流域において、3万m³/年を浚渫し、送泥管により分派堰上流に設けたストックヤードまで輸送(配管圧送)し、集積する。

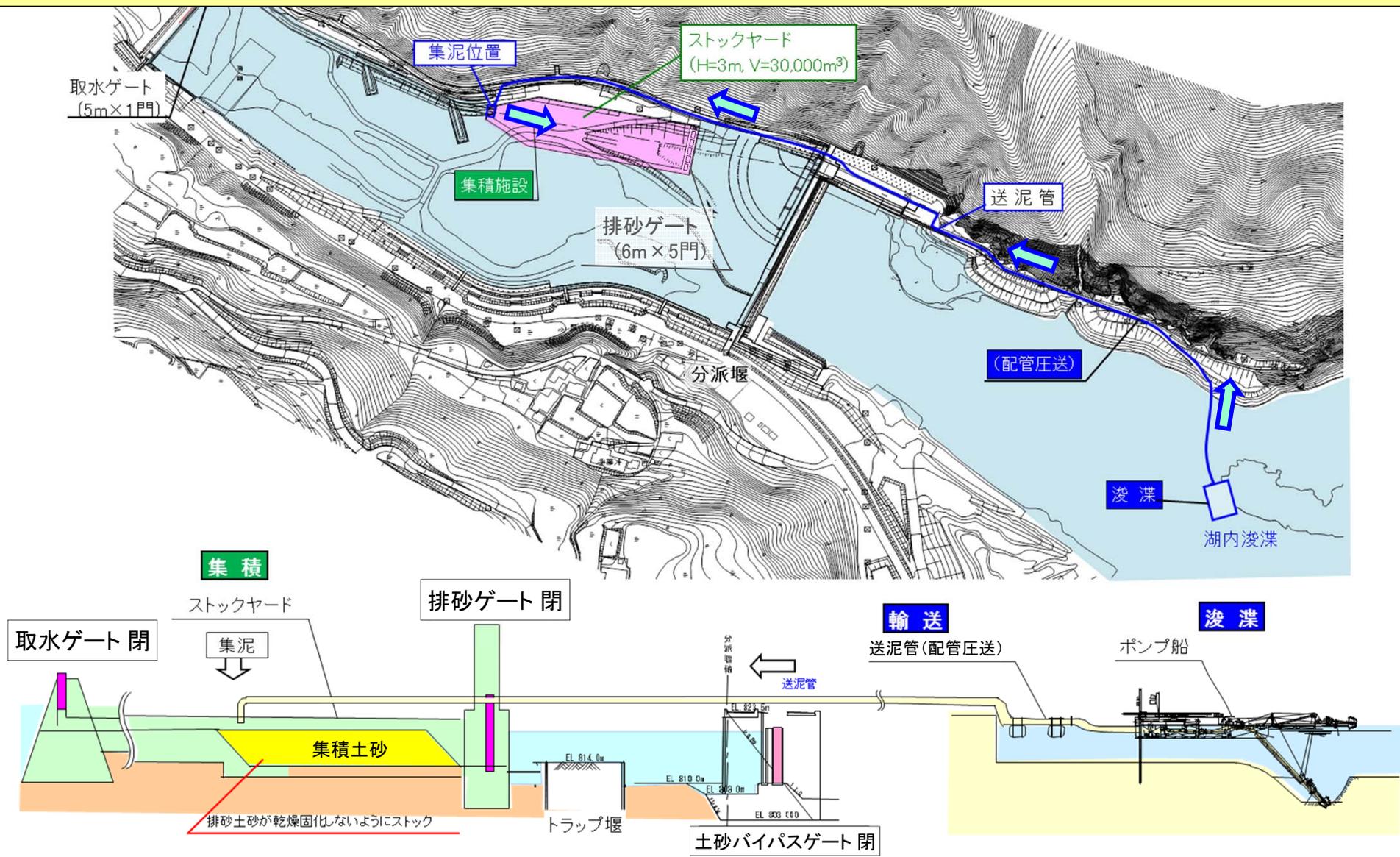
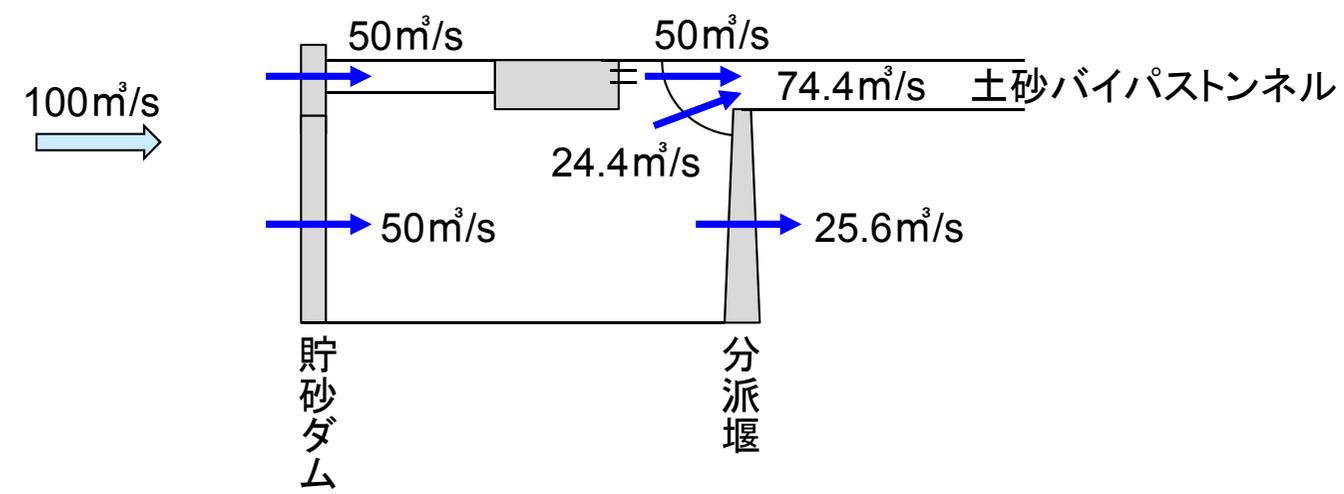


図 湖内堆砂対策運用イメージ図 (通常時)

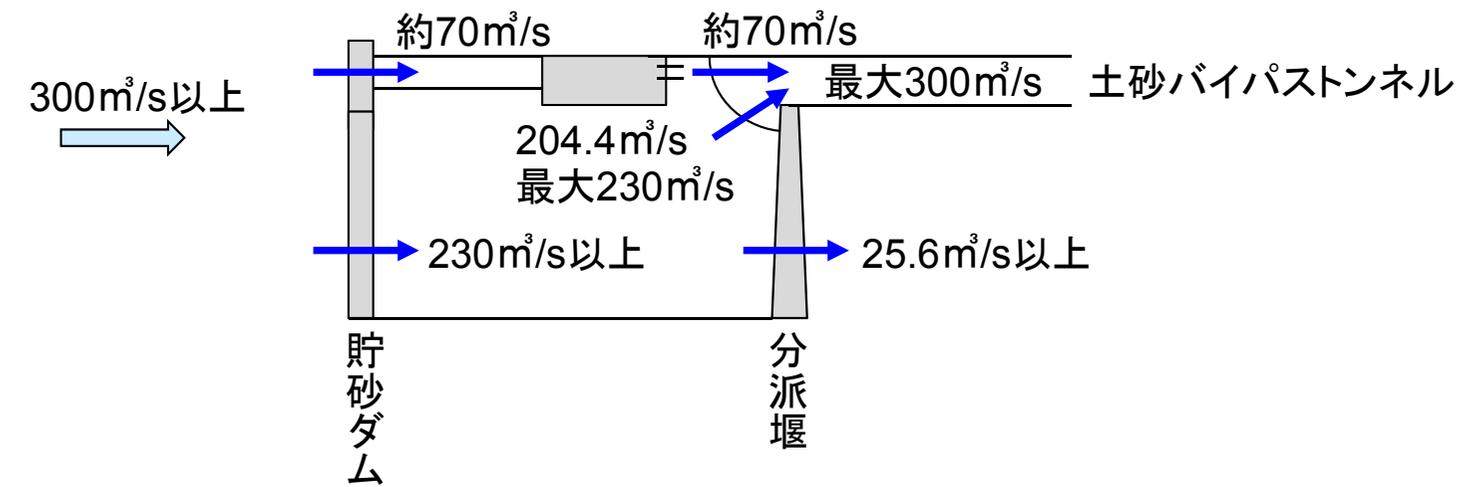
1. 湖内堆砂対策施設の見直し

①土砂バイパスの排砂開始※後、ストックヤード排砂ゲート開、取水ゲート開の順に操作を行い、排砂を開始する。
 開始時のストックヤード内流量は、土砂移動の観点から $50\text{m}^3/\text{s}$ とした。
 (①以上はS41~H23の実績では、年3回程度の発生頻度)



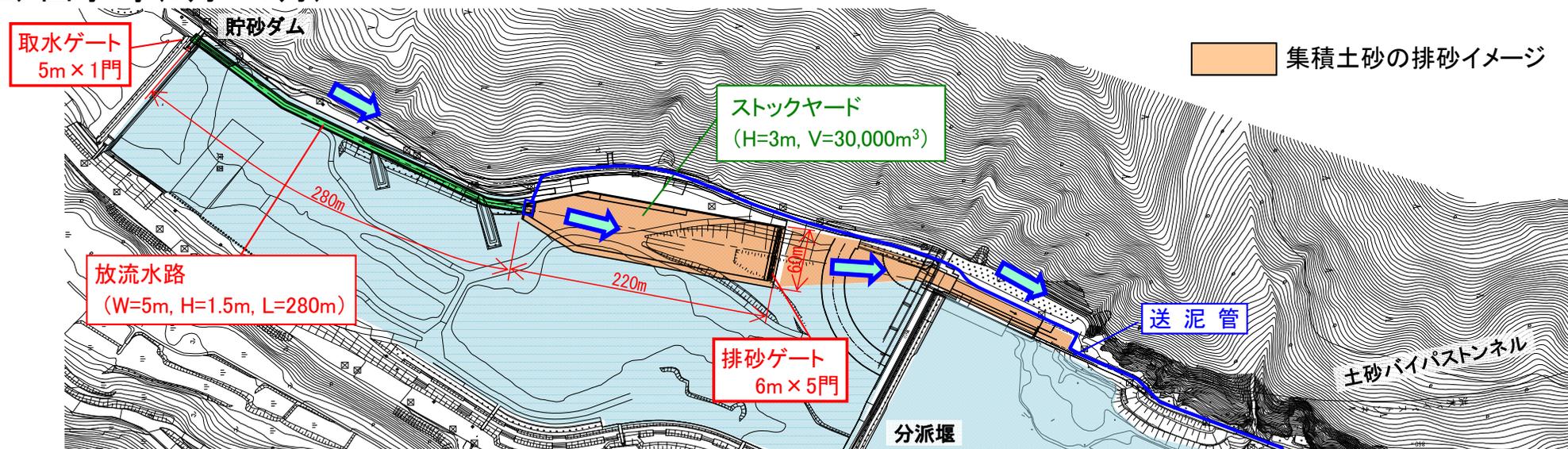
※土砂バイパストンネルからの排砂は、美和ダム貯水池の水位回復後に開始されるものとし、既往の運用実績よりダム流入量が $100\text{m}^3/\text{s}$ となった時点から開始されるものと想定した。

②ダム流入量が $300\text{m}^3/\text{s}$ 以上となった際は、ストックヤード内流量は約 $70\text{m}^3/\text{s}$ に維持するものとする。
 (S41~H23の実績では、3年に1回程度の発生頻度)

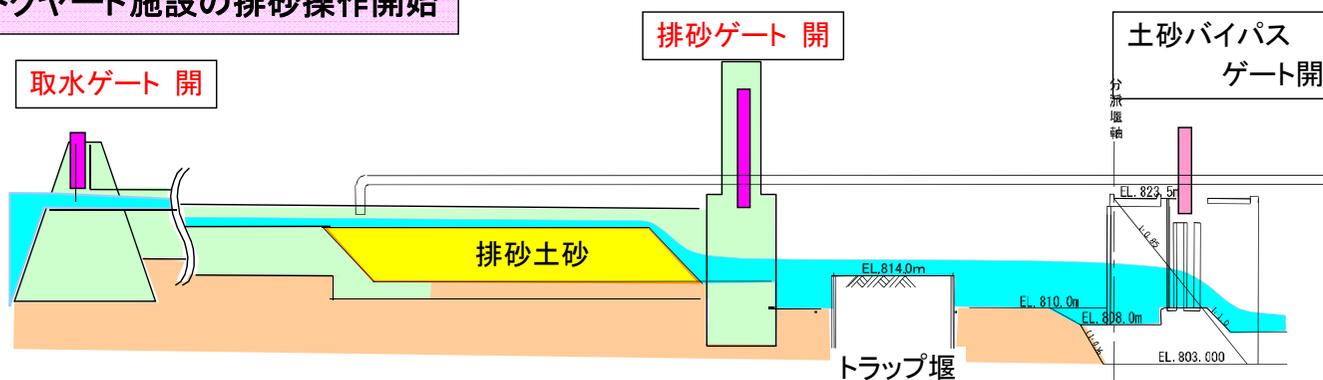


1. 湖内堆砂対策施設の見直し

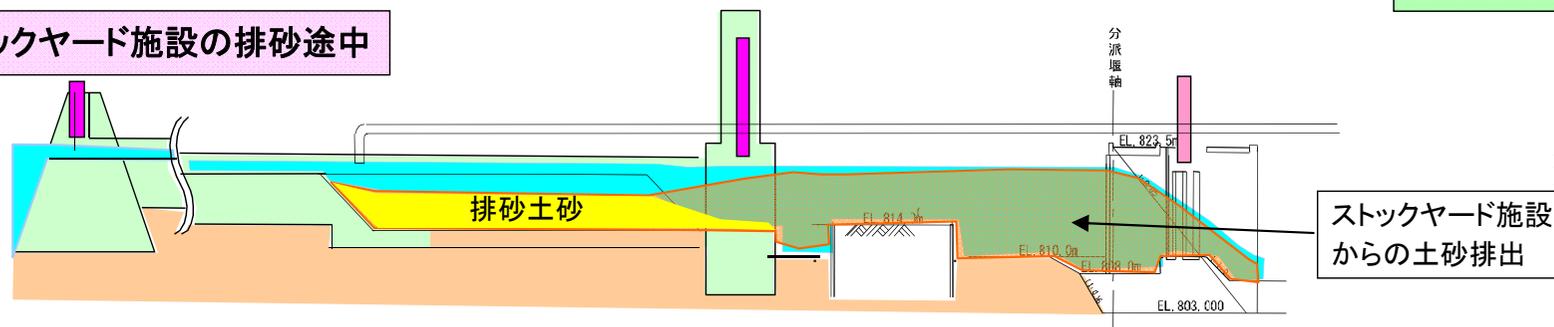
(2) 出水時(6月~9月)



ストックヤード施設の排砂操作開始



ストックヤード施設の排砂途中



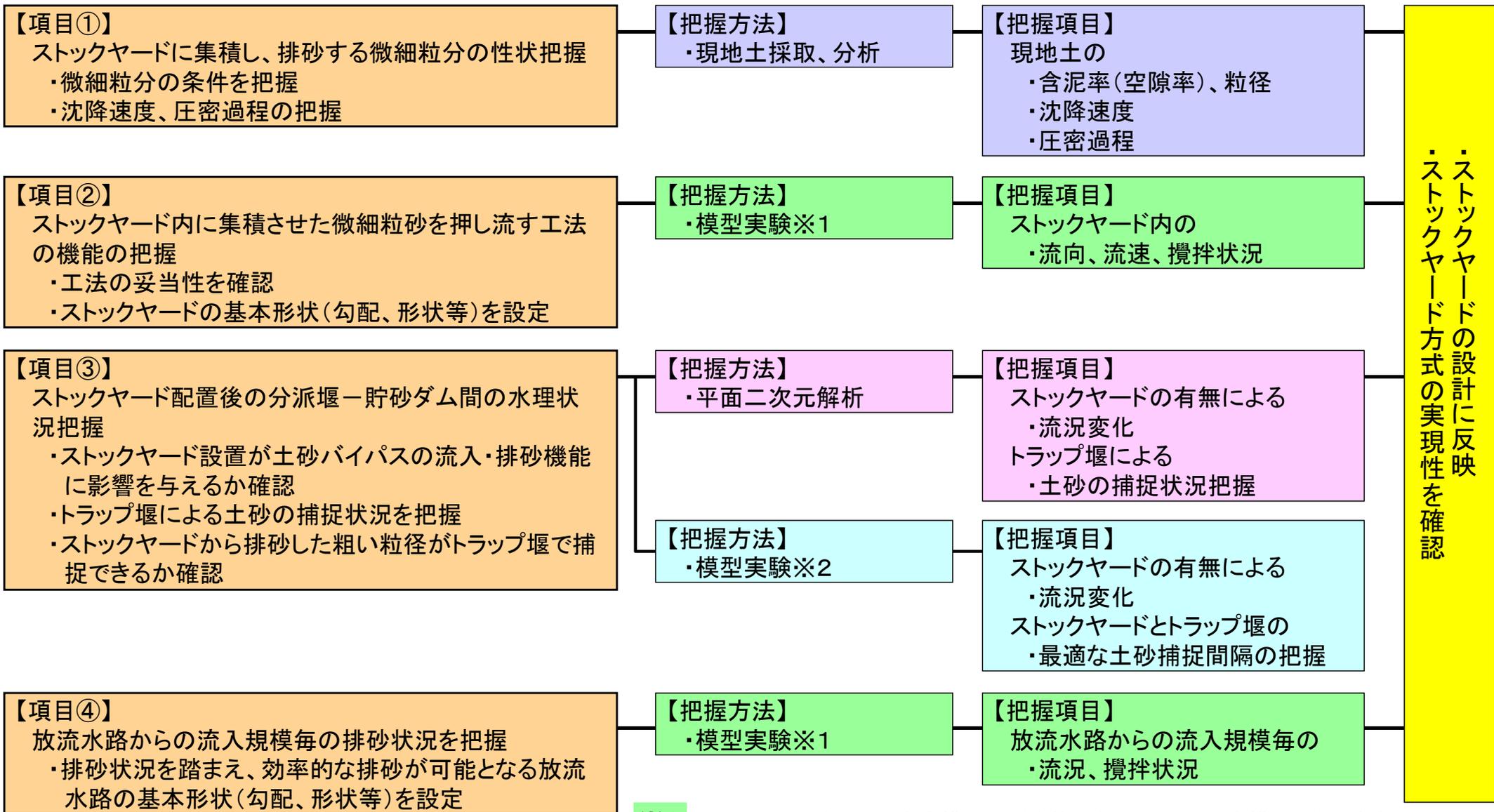
排砂操作の概要

- 1) 分派堰の土砂バイパスゲート 開 (バイパス操作開始)
- 2) 取水ゲート開 (貯砂ダム)
- 3) 排砂ゲート開 (ストックヤード)

図 出水時の運用

2. 施設設計に向けた検討方針

- 湖内堆砂対策施設について、模型実験等によりストックヤード方式が実現可能なものかを確認した上で、設計に反映する。
- 実験により把握すべき項目を以下の通りと考えており、これにより作成した実験計画について、次回の委員会で確認頂く予定としている。



※1 : スtockヤード内の固定床模型及び実施可能な疑似移動床模型(導水路含む)
 ※2 : 分派堰ー貯砂ダム間の固定床模型(ストックヤード含む)

今後の委員会の予定

	実施時期	委員会の内容
■ 第2回委員会	H25. 8	<ul style="list-style-type: none">・ 前回委員会での指摘事項の報告・ 水理模型実験の目的・計画方針・ 下流影響検討の中間報告
■ 第3回委員会	H25. 11	<ul style="list-style-type: none">・ 前回委員会での指摘事項の報告・ 水理模型実験中間報告・ 下流影響検討結果報告・ 施設の運用計画
■ 第4回委員会	H26. 1	<ul style="list-style-type: none">・ 前回委員会での指摘事項の報告・ 水理模型実験結果報告・ 湖内堆砂対策施設計画の決定・ 施設の運用計画決定・ モニタリング計画